

相場分析レポート

2018/3/29 配信

高田資産コンサル <http://www.takadacon.jp/>

日経平均日足



日経平均週足



TOPIX日足



TOPIX週足



マザーズ日足



マザーズ週足



今後のポイント

- ・ 3月27日に空けた強気の窓を昨日は埋めきらなかったことは強気シグナルである。
- ・ 3月26日に底打ちしてからの日本株の値動きは米国株よりも相対的に明らかに強い形が続いており、昨日はこの傾向がさらに強まった形である。
これは3月26日で日本株は大底を打った根拠になり得ると考えており、同時に3月26日から日本株の強気相場・出遅れ修正高が開始したとみている。
当面は日経平均はNYダウよりも相対的に強い相場が続き、日本株に資金が流入する展開を想定する。
- ・ 既報の通り、3月23日発表の投資部門別売買状況では海外投資家の売りスタンスに変化の兆しが見えていた。今週の値動きを見ると、海外投資家も今週は買い越しに転じている可能性がある。
- ・ 今回は4月2日～13日の重要日柄から1週間倒して底打ちしたと想定する。
ただし、直近は値動きの荒い相場が続いているように、しばらくはこのような相場が続き、買い方も売り方もふるい落とししながら懐疑の中で相場は育つ（上昇）と想定する。
- ・ 1月8日～19日の重要日柄は翌週の1月23日に高値をつけ、
4月2日～13日の重要日柄は前週の3月26日に安値をつけたため、
5月21日～6月1日の重要日柄は高値と一致する展開を想定する。
したがって、今後2か月程度は高値と安値を切り上げる上昇相場が続くと想定して
買い戦略をしばらく継続する。
- ・ 底打ち後の初期上昇波動ではふるい落とされる買い方が多く、売り上がって損失が拡大する売り方も多い。これは過去に何度も繰り返されてきたことであり、今回もこのようなことが起こっていると考えている。このことを理解して他の投資家と同じ失敗をしないことを意識する。先物はゼロサムゲームであるため、他の投資家に勝たなければ利益を得ることができない。（敗者の損失が勝者の利益になる）
- ・ 上昇トレンドは投資家の買いが時間差で発生することがトレンドを生み出す要因となるため、上昇相場の恩恵を真っ先に受けることができる投資家は、他の投資家よりも安値で買った投資家である。今回もほぼ底値付近で仕込むことに成功したが、できる限り他の投資家よりも安値で買うことが、その後の好循環に繋がることになる。
日常ではお得なバーゲンセールでは買い物客が殺到するが、相場の世界は違い、相場が

大きく下落すると悲観的な見方が増えて投げ売りや新規売りが多くなり、安値で買ったも途中でふるい落とされてしまう投資家も多くなる。

逆に相場が上昇すると楽観的な見方が増えて高値でも買いが殺到するようになる。

そして、相場に押し目が無くなってくると「持たざるリスク」が意識されることになるのが過去も繰り返されてきた相場の循環である。

多くの投資家が底打ちを確信するようになってくると押し目待ちに押し目無しの上昇に発展することがよくあるが、需給環境が良くなりやすい4月のどこかで押し目待ちに押し目無しの上昇が起こりやすいことも予めイメージしておく。

・このように相場の値動きや投資家心理は大体のパターンが決まっているため、完璧に相場を読み解かなくても大体のパターンや流れをつかむことで着実に利益を積み重ねる戦略を実行することが可能だと考えている。むしろ、完璧に読み解こうとせずにある程度許容範囲を設けて相場を観ながら売買戦略を立てる方が結果的に上手くいきやすいと考えている。（相場の世界においては完璧思考は失敗のもと）

・27日に日経225ミニ先物は20820円で半玉利食いとなった。

残り半玉はトレーリングストップを20330円に設定する。

このような売買を実行することで着実に利益を積み上げる好循環が続き、今後も他の投資家よりも優位な立場で相場に臨むことができると考える。

・相場の循環についてのおさらい

- (1) 多くの投資家が懐疑の中で上昇相場が開始する
- (2) 割高になるまで買われる
- (3) 投資家心理が総強気の中で相場が天井打ちする
- (4) 高値を更新しなくなる
- (5) 悪材料が出てショック安が起こる
- (6) ショック安後に株価は戻るが高値を更新できない
- (7) 高値と安値を切り下げるトレンドがはっきりする
- (8) 投資家の恐怖心による投げ売りで割安な水準まで売られる
- (9) 総悲観の中で株価は底打ちする

この後再び(1)へと続く。

このような形で相場は循環するが、

3月26日安値20347.49円は(9)になった可能性がある。

海外投資家の売買動向

期間	日経225先物 (ラージ+ミニ)	TOPIX先物 (ラージ+ミニ)	マザーズ先物	東証一部	東証二部	マザーズ	JASDAQ
12月18日～22日	2499億円	▲1230億円	▲5.6億円	1168億円	16.6億円	35.2億円	4.1億円
12月25日～29日	▲118億円	▲463億円	4.8億円	▲1699億円	64.6億円	50.8億円	31億円
18年1月4日～5日	2265億円	▲306億円	▲0.6億円	4819億円	▲5.2億円	▲42.3億円	78.3億円
1月9日～12日	▲7363億円	▲2392億円	▲8.5億円	▲219億円	▲69.8億円	▲6.1億円	▲21.1億円
1月15日～19日	174億円	232億円	▲0.76億円	▲1991億円	▲70.6億円	▲88.7億円	▲72.5億円
1月22日～26日	▲3123億円	▲1545億円	9.9億円	▲3588億円	17.7億円	64.2億円	▲54億円
1月29日～2月2日	▲4308億円	▲4121億円	▲4.5億円	▲3317億円	▲17.8億円	▲61.2億円	▲130億円
2月5日～9日	▲6437億円	▲5082億円	1.1億円	▲6393億円	18.4億円	▲42.1億円	▲31.9億円
2月13日～16日	▲3211億円	▲1980億円	6億円	▲286億円	▲25.6億円	▲45.4億円	▲5.7億円
2月19日～23日	▲2424億円	▲1549億円	▲1.4億円	▲1115億円	5.47億円	▲24.7億円	2.93億円
2月26日～3月2日	▲3858億円	▲2027億円	▲7.3億円	▲3486億円	▲1.07億円	▲16.2億円	19.8億円
3月5日～9日	▲4198億円	▲444億円	▲0.12億円	▲3706億円	▲22.8億円	2.53億円	▲28億円
3月12日～16日	▲1875億円	246億円	▲12億円	▲1761億円	50.1億円	7.16億円	▲24.8億円

拡大版はこちらからご確認ください。

<http://livedoor.blogimg.jp/tomootakada/imgs/8/f/8f22d268.png>

・ 3月23日引け後に発表の投資部門別売買状況によると、海外投資家の売りスタンスは変化の兆しが見え始めている。

・ 以下は過去の重要な安値月のPBR・PER・配当利回りである。

2018年3月23日のPBRは1.15倍・PERは12.22倍・配当利回り1.88%

2018年3月5日のPBRは1.18倍・PERは12.50倍・配当利回り1.84%

2018年2月14日のPBRは1.20倍・PERは12.81倍・配当利回り1.81%

2017年9月安値 PBR1.22倍・PERは13.69倍・配当利回り1.83%

2017年4月安値 PBR1.21倍・PERは15.19倍・配当利回り1.75%

2016年11月安値 PBR1.13倍・PERは14.52倍・配当利回り1.87%

2016年6月安値 PBR1.03倍・PERは12.62倍・配当利回り2.15%

2016年2月安値 PBR0.99倍・PERは12.97倍・配当利回り2.13%

2015年9月安値 PBR1.14倍・PERは13.37倍・配当利回り1.84%

2015年1月安値 PBR1.35倍・PERは15.36倍・配当利回り1.43%

2014年10月安値 PBR1.18倍・PERは13.98倍・配当利回り1.61%

2014年5月安値 PBR1.16倍・PERは13.46倍・配当利回り1.66%

2014年4月安値 PBR1.28倍・PERは13.69倍・配当利回り1.59%

2013年6月安値 PBR1.20倍・PERは14.02倍・配当利回り1.71%

3月の相場展望

「日経平均メインシナリオ」

5月21日～6月1日の重要日柄に向けての上昇トレンドを想定する。(3/29)

日柄と投資家心理で後講釈や相場を先読み

重要日柄から1週間倒しで3月26日が大底になったと想定する。空売り比率の高水準が続いており踏み上げの原動力が溜まっていることや、4月の好需給の期待、海外投資家の買い越し転換の期待、割安な日本株の出遅れ修正高期待等が、今後の日本株上昇の後押し要因になりそうだ。3月26日で投資家心理は総悲観、ここから懐疑の中の上昇が開始したと想定する。(3/29)

【3月の変化日】

二重丸◎が多いほど重要度が高い。

「日経225」

2月26日～3月9日◎◎

3月17日

3月24日

3月29日